



## 年頭にあたりご挨拶

(一社) 岩手県測量設計業協会  
会長 加藤 清虎

平成29年の年頭に当たり挨拶を申し上げます。

東日本大震災から6年目を数える年を迎えました。被災地域の人達はもちろん県民始め多くの関係者が完成を待ち望む中、県は本格復興完遂年を基軸に進捗が図られて来た結果として、昨年10月に県復興局は社会資本の復旧・復興に関するロードマップが公表されました。主要8分野平均の着工率は90%を超えており完成度は54%と確実に復興の成果が観られます。

中でも「道路関係」は90%と着工率が高く「港湾」や「海岸施設」及び「復興まちづくり」が続いている様であります。

昨年は46年ぶりの記念すべき本県会場の国民体育大会開催を控えた8月30日夕方、太平洋を迷走した台風10号が大船渡市へ上陸したことで沿岸から県北地域に大災害が発生し、正に明暗を分ける事態となりました。

犠牲になられた方々、被災された皆様に心からお悔やみとお見舞い申し上げます。

日頃、私たちの協会は地域社会の安全・安心なインフラ整備の最上流部を担当する技能集団として日々研鑽に努めてまいったところであり、社会的使命の信条から発注機関に対し「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結しております。今回の台風10号災害に関しても過去の災害同様に協定締結機関からの要請に対し、協定に基づいた業務履行の為、数次にわたる岩測協災害対策本部会議を以て公共土木災害2千カ所を超える広範な地域の被災現場の現況調査・測量設計について会員企業総力戦で対応し、連日の災害査定も終盤を迎えているところです。

私たちの協会は1日も早い震災復興及び台風10号の復旧に向け引き続き万全な支援体制を構築してまいる所存であります。

かつて財政構造改革の施策にあって公共事業費が長期にわたって抑制され建設関連業界の関係する事業費はピーク時に比べ50%の下降期にあって会員の

減少等が続く企業の体力回復も厳しいものが有ります。

しかし社会資本の維持管理を支える責任を貫くために、会員の減少から来る緊急時の対応が困難な事態の発生も考慮し、現今クローズアップされている「i-Construction(アイコンストラクション)」の柱の一つとなるICT技術の研鑽等、新時代の技術習得に向け、研修会を実施継続する所存であります。

起業機関による「担い手3法」の積極的な施行は、会員企業にとって起業者とのビジネスパートナーとして貢献でき、技術者育成・伝承にも繋がりインフラ整備の先兵となると考えております。

社会資本の維持管理の時代となり、メンテナンス業務は益々重要であり、若い人達が「誇りの持てる仕事」として積極的にチャレンジしてくれる業界に戻す為にも起業者のご理解を求めています。

関係の皆様には今後とも温かいご指導ご愛顧をお願い申し上げ年頭の挨拶といたします。